

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

[Finet Feature Articles]

品質系情報の標準化

～“情報項目の標準化”段階から実用化に向けて！～

イオンアイビス株式会社
ビジネスサービス本部 本部長
宮崎 厳 様

株式会社シジシージャパン
管理サポート本部 副本部長 兼 ビジネスサポート統括部 部長
兼 CAP推進室室長
田中 彰 様

キューピー株式会社
品質保証本部 品質情報センター センター長
妻谷 勝弘 様

株式会社ニチレイフーズ
品質保証部長
片山 博視 様

[Finet Information]

EDIコードのGTIN化はじまる！
商品流通VANの通信手順移行 推進中！

Vol. **18**
2010 Spring
ファイネット発行

品質系情報の標準化

～“情報項目の標準化”段階から実用化に向けて!～

冷凍野菜の残留農薬問題や毒入り餃子事件以降、「食の安全・安心」への関心が非常に強まっており、商品の品質管理や食品成分表示、消費・賞味期限管理等、消費者に直接対峙されている小売はもちろんのこと、品質情報を発信されるメーカーも品質系情報の授受に大変苦勞されています。2009年3月「品質系情報標準項目（加工食品）Ver.01」230項目（略称：品質230）が制定され、品質情報標準化の推進基盤ができました。

今号では、品質情報の標準化の意義について、小売・メーカーの皆様にお話をうかがいました。

（本文敬称略）



〔出席者〕 左より

株式会社シージージャパン 管理サポート本部 副本部長 兼 ビジネスサポート統括部 部長 兼 CAP推進室室長 **田中 彰** 様

イオンアイビス株式会社 ビジネスサービス本部 本部長 **宮崎 巖** 様

キュービー株式会社 品質保証本部 品質情報センター センター長 **妻谷 勝弘** 様

株式会社ニチレイフーズ 品質保証部長 **片山 博視** 様

〔司会〕 株式会社ファイネット 常務取締役 運用管理部長兼企画・開発部長 **寺田 安雄**

◆ 品質系情報授受の問題認識

——2007年以来、小売大手／主要メーカーが同じテーブルに着き、品質系情報授受について、各々の問題意識を共有し、情報項目の共通化、標準化の討議を重ね、一定の結論、合意に達しております。それでは何故、品質系情報の標準化を進める必要があったのか、また品質系情報の授受の当事者である小売とメーカーが同じテーブルに着き議論をする、あるいはせねばならないと認識

したのでしょうか？ まずは、小売側の方からお願いいたします。

宮崎 イオンでは、トップバリューというPB商品の取扱いを拡大しており、お客様への品質系情報については社内的にも非常に気を遣っております。現状では、部門ごとに異なる方法で品質系情報を授受しておりますので、バラつきがあります。

品質系情報の重要性を認識し、個別に工夫しておりますが、統一性がないのは事実です。そのため全体最適から見ると迅速に対応できない点があるのではないかと思います。

います。

田中 当社は227のスーパーが加盟しているコーペラティブ・チェーンであり、加盟店の多くがPB商品も扱っているメーカーでもあります。

従いまして、お客様に対する品質系情報の重要性は、日頃より痛感しております。そのため、お客様に「安全・安心」をお届けするための基準を設けるため、今年「ISO14001」取得を目指しております。品質系情報については、「GCI-J」*1参加の小売でも、それぞれの考え方・捉え方があり、各社バラバラの仕様書を作ってきた経緯があります。これからも商品はどんどん改変され、作り方も変わってきます。そう考えますと、品質系情報の内容も随時変わっていくこととなりますので、これにどのように対処していくかが、これからの本場の課題だと思えます。

——メーカー側の方々はいかがでしょうか。

妻谷 メーカーも1企業で品質保証をすればよいというのではなく、“フードチェーン”という考え方で、関係する各企業が「安全・安心」を考慮し品質を第一優先にして、商品とともに品質系情報（仕様書）の授受が行われます。しかし、各企業により仕様書の書き方が異なるため、やり取りに無駄な時間を費したり、記入ミスを起こし、ご迷惑をお掛けしてしまうことがあります。仕様書が一つの定義に基づいて作成できれば、入力負荷も軽減され、効率的な情報授受ができます。他社に提示する場合でも、同様の内容でどこにでも情報の提供ができます。

業界を通して業務の効率化を図るには、品質系情報の標準化を進めることが課題です。

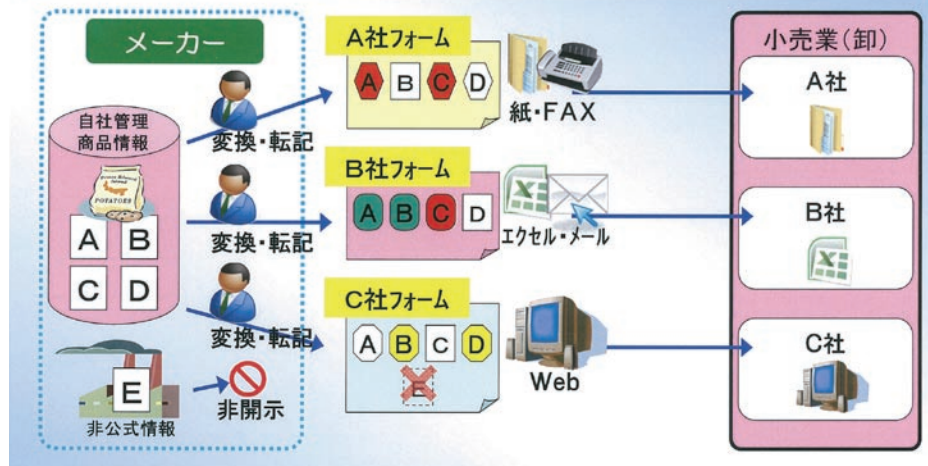
——ちなみに仕様書は何種類あり、年間での作成枚数はどのくらいになりますか。

妻谷 仕様書はおよそ1,300種類あり、年間で1万8,000件近く作成しています。

片山 商品情報は、食品の安全性をいかに確保できるかという点と、お客様が商品を選ぶ際の判断情報とに分けられます。

小売さんがメーカーに対して、安全性と判断情報の両面で商品情報を求めることは理解しております。しかしながら同じ情報を各社ごとに異なった形で提供するには非常に手間がかかります。「品質230」は、コスト管理

品質系情報の授受イメージ【現状】



が厳しいなか、余計な手間をかけずに正確な情報をしっかり伝えられるのではないかと期待しています。メーカーは市場では競合していますが、食の「安全・安心」は、協力して整合し合うべきです。

ここで協調しなければ「安全・安心」に求める品質系情報も膨大になります。

◆ 品質系情報標準化のメリット

——ファイネットも事務局として支援し、小売大手／主要メーカーの「品質保証部門」の方々が集まり、進めてきた品質情報項目の標準化ですが、そのメリットどのようなことであるとお考えでしょうか。

宮崎 標準化は、品質情報授受プロセスにかかる期間を短縮し事務効率があがります。商品品質情報管理は、日々運用で、必要情報は何か、どのようなオペレーションがよいのか、異常が発生した際いかに迅速かつ、さまざまな角度から情報を取れるようにしておくかが重要です。お客様の声が一番重要ですから、問合せの回答がすぐにでこなければなりません。また、メーカーさんとの新規取引や変更でも余計な調整をせず、品質情報の授受や差し替えが効率的に行われるようになります。これは標準化の大きなメリットです。



宮崎 巖 様



田中 彰 様

田中 景気低迷のなか、コストを重んじる企業が多くなっています。一つの標準ルールを確立し、コストを下げつつ安全・安心面で正確で緻密な情報を提供できる形になればメリットとなるでしょう。

片山 現在の品質系情報授受のやり方

では、同じ言葉を使っているにもかかわらず各社のとらえ方が違う場合があります。小売の方と話をしてみると、言葉では同じような品質系情報を要求しているようでも、受け取った情報が要求にそぐわないことも多々あるようです。品質系情報の標準化ができれば間違えて理解してしまうことを防げます。食品業界全体を考えますと、大企業・中堅企業はもとより、中小規模の小売、メーカーにも「品質230」が普及することで、最低限必要な品質系情報が授受されるのではないのでしょうか。品質系情報の標準化はメーカーにとって非常に助かりますし、お客様と直接やり取りをする小売さんも無駄な時間をかけず、迅速に回答できれば問題を複雑化させずに済むかと思えます。

妻谷 「品質230」では、項目それぞれが、どのようなことを意味しているのか定義づけを行いました。同じような品質系情報でも、要求する情報の本質は各社で異なるため、本来一度で済むやり取りを何度もしなければなりません。実際に、小売各社さんの仕様書は、一度でパスすることはなかなかありません。さらに仕様書作成説明会に出席しなければ品質系情報の書き方がわからないなどということもあります。項目を定義づけることによって小売さんとメーカー双方が「この定義で書いている」ことを納得すれば、決まった項目に従って書けばいいので、メーカーの大小にかかわらず同様の対応ができるというメリットは感じます。

◆ 「品質230」実用化への取り組み

——品質情報の標準化は、短中期的にはお集まりの各社が「品質230」を実務活用されることで、普及が促進されると思います。「品質230」実用化についての問題点や課題、また、各社の実務への取り組みについて、現状と今後の考えをできれば具体的にお願いします。

小売さんは、どのようにお考えですか。

宮崎 「品質230」で項目の標準化はできましたが、仕様書のフォーマットがメーカーさんによってバラバラですので、それを纏める必要がありますね。一気にフォーマットや項目を変えることはハードルが高すぎますので、まずは品質系情報項目をメーカーさんごとに提案していただき、それをベースに必要な項目を決めるのが第1ステップだと思います。また、「品質230」の維持・管理、メンテナンスなどの仕組みも考えなければなりません。品質系情報の標準化については、社内でも情報共有し、データの受け方、フォーマットを統一化するように働きかけていこうと考えています。

——実際に、社内システムなど特定の部分で改善していくような動きはありますか。

宮崎 具体的には、実行中というところですが、生活品質科学研究所という、お客様サービス部などに対応して品質管理を主管する部署があり、商品部に品質管理を徹底させる活動をしています。

田中 品質系情報に関しては、メーカーさんと打合せする機会も多くなく、小売・流通側は過剰な情報を要求していた可能性も大いにあります。今後は小売、メーカーの話し合いを重ねながら、どのように品質系情報を集約していくかを考えていけばいいのではないのでしょうか。私どもは、とりあえず社内の情報を自社システムで処理しながら、最終的には、「品質230」に移行できるよう進めていきます。日本中で「安全・安心」のために、何をしたらいいのだろうという考えが広がり、「品質230」の普及につながればと思います。

——メーカーさんのご意見はいかがでしょう。

妻谷 「品質230」を作るにあたり、小売さん各社からさまざまな要求事項を持ち寄っていただき、何が共通項目として必要なか議論させていただきました。製・配・販の間でレベルを合わせることができ、よくできた項目になっていると思います。項目だけが決定した状態ですので、実際に進めてみたときに「どのような使い方をするのか?」「どのようなシステムでやるのか?」「どのような運用をするのか?」などの問題



妻谷 勝弘 様

がまだ見えていません。テスト期間を設けて稼働させ、問題点・課題を具体的に出し、解決するステップを踏み、そのうえで普及させていく方向がいいのではないかと考えます。



片山 博視 様

片山 システムベンダーが提供するシステムを利用し、WEBで品質系情報を決まったフォーマットでやり取りする会社は増えています。しかし、実際には同じフォーマットなのに得意先ごとに入力用画面や必須項目が違っているというのが現状です。「品質230」が認知され、運用上うまく働き出せばすごく楽になります。「品質230」を業界に影響のある企業に使っていただき、改善を加えていながら広めていくことが大事でしょう。あとは社内のデータベースなどを、それに合わせたフォーマットに作り変えていくほうが比較的簡単だと思います。小売さんと同じ目線に立ち、品質系情報の標準化をうまく共有できるよう、またメリットがあることを理解していただけるよう取り組みたい。さらにファイネットさんに品質系情報の標準化のメリットをアピールしていただき、導入するきっかけを広げていただきたいと思います。

◆ ファイネットに期待すること

——品質系情報の授受、あるいは「品質230」の普及・実務活用を進めるについて、ファイネットに期待することがあれば、お聞かせください。

宮崎 メーカー、小売はそれぞれ社内のシステムがありますから、「品質230」の品質情報を端から端までつないで実証してみたいですね。実証できたらファイネットさんに中小の企業にも紹介していただく。それと同時に統括する事務局も辛抱強くやっていただけたらと思います。

田中 私どもは考え方がかなり異なる227の会社が集まっています。なかなか難しいのですが、ポイントは、お客様の声が一番の影響を持っているということです。今後も、「品質230」の情報でお客様の要請に十分対応できるよう、製・配・販が集まって討議を進める必要があります。そのためにファイネットさんには中立的な立

場で、情報項目の今後の維持・管理と普及を推進する中心的存在になっていただきたい。われわれも言う以上は責任を持って会社に持ち帰り実践してまいりますので、事務局的な作業を大いに進めていただきたい。

妻谷 ファイネットさんには小売・メーカーが同じ目線、同じ場所で話す場を設けていただいたことに感謝します。「品質230」は維持・管理ができなければすべてが無駄になってしまいますので、是非「FDB」*2への「品質230」項目の実装と標準フォーマットで入出力できる環境整備を行ってください。メーカー側は情報提供の効率もよくなり、小売さん側もお客様に対して瞬時に情報提供できるというメリットも出て、理想的な形になると思います。それも含めた事務局としての対応をお願いしたいと思います。

片山 誰もが品質系情報標準化の必要性は考えますが、各論に移ったとき進展しないのが現実です。「品質230」の内容更新を継続しつつ、FDBに「品質230」の項目を網羅し、シングルエントリーで標準フォーマットをつかえる状態まで形づくっていただきたい。ある程度の実績が出れば、参加企業も広がっていくでしょう。軌道に乗るまでは、われわれも汗をかいて努力してまいります。ファイネットさんには是非とも、とりまとめをお願いいたします。

——「品質系情報の標準化」には、まだまだ課題や問題点も多く、「品質230」の普及・実務活用にも多くの時間がかかるでしょう。

ファイネットも広報普及活動、標準項目維持管理、検討会議の支援等、できる限りの支援をさせていただきます。本日お集まりの皆様も、是非、社内外での「品質230」の実務活用を進めていただきますよう、お願いいたします。

本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。

注)

*1 GCI-J

正式名は日本GCI推進協議会(略称：GCIジャパン)、消費財 製・配・販三層による標準化推進組織(民間団体)。

*2 FDB

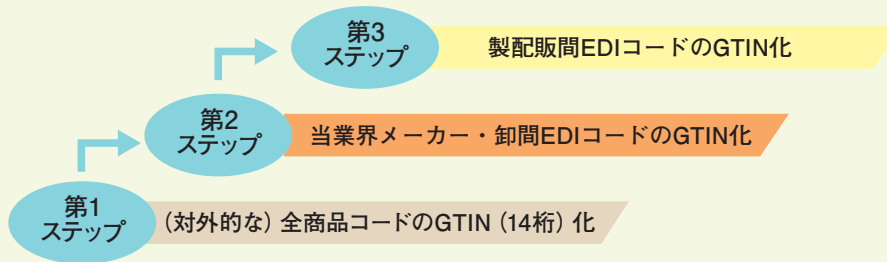
ファイネット商品情報データベースサービスの略。当社が運営する、酒類・加工食品業界向け商品情報データベース。

酒類・加工食品業界

メーカー・卸間でのEDIコードのGTIN化はじまる!

当業界メーカー・卸間でGTIN（世界で唯一の企業間取引での商品を表す標準コード）の実用化がはじまりました。ITFコードの14桁化を完了した企業を中心に、第2ステップに移行しました。

「酒類・加工食品業界標準化推進会議」（以下、標準化推進会議）が考える最終目標到達に向けてのステップ



1 ▶ これまでの経緯と現状

■ これまでの経緯

当業界メーカー・卸を取り巻く環境が激変する中、早期にGTINのEDI活用を実現したい標準化推進会議参加企業が、自主的に第2ステップの実現に向け、改めて課題とその解決方針

の共有、および実現に向けた運用ルールの確認を行い、テスト/本番を実施しながら、導入企業の拡大を図る活動が2009年7月より始動した。

参加企業

メーカー (9社)	アサヒビール、味の素、カゴメ、キューピー、月桂冠、ニチレイフーズ、日本水産、ハウス食品、マルハニチロ食品
卸 (5社)	伊藤忠食品、加藤産業、トークン、明治屋商事

■ 現状

第2ステップの実現にあたっては、当事者であるメーカー/卸が、事前に双方の商品マスタを整備し、EDIを開始するデータ種ごとにシステム/運用テスト~検証を実施した上で、本番に移行する方式が取られた。

現時点では、味の素と明治屋商事が2010年1月より“販売実績データ”のEDIコードのGTIN化本番稼働を開始した。両社

は同3月から“販促金データ”のEDIコードのGTIN化本番稼働も開始する。また、味の素とトークンは“受発注データ”でシステム運用テストを既に開始しており、加藤産業とメーカー3社でも“販売実績データ”でEDIコードのGTIN化本番稼働を開始しているなど、当業界でのEDIコードのGTIN化への取組が活発になってきている。

2 ▶ 今後の展望

・EDIコードのGTIN化が先行した企業間の事例や、課題とその解決方針を共有し、導入企業の拡大を図る。

・既に2010年4月から、上記企業間で“受発注データ”や“出荷案内データ”でのシステムと運用のテスト・検証が予定されている。

● ITF14桁化の状況

標準化推進会議参加メーカー22社のITF14桁化に関し、2009年末までに家庭用/業務用双方で100%完了しているメーカーが5社。90%以上完了したメーカーが13社、残るメーカーも80%以上完了しており、全てのメーカーが、期限である2010年3月までに、リニューアルのない商品についても一斉切替えを表明している。

ユーザー皆様のご協力を得て、 商品流通VANの通信手順移行 推進中！

—JCA、全銀協BSCから、全銀協TCP/IP手順へ—

主旨

従来手順用通信機器の製造・サポート停止メーカーの増加

- ・入手がより困難に、また価格も高くなってきています。
- ・故障発生時の保守・交換に時間を要すなどの危険性を回避する対応が必要です。

流通業界における従来手順からの移行

日雑業界は既に2008年中にて従来手順を廃止。小売業においてもより高速な手順への移行の流れが始まっています。

▶ 安定した運用、安全でより高速な通信手順である 全銀協TCP/IP への完全移行

【対象】 商品流通VAN、資材VAN利用のHOST接続ユーザー

【完了時期】 2012年3月末（JCA、全銀協BSC手順のサポート停止）

2009年度より開始している全銀協TCP/IP手順への移行については、
ユーザーの皆様のご理解を得ながら順次進めております

今回も既に通信手順移行対応を行われたユーザー事例を紹介をします

株式会社ニチレイフーズ

●課題

近年、販売実績データ受信は全銀BSC手順・9.6kbpsで3時間以上かかり、締め時間までに終了できない状況が起こりつつありました。昨年、通信回数を分散して締め時間前の通信データ量を減らす対応を行い、当面の問題解決を図りました。しかしながら、トータルの回線占有時間は変わらないため、通信速度向上の必要性がありました。

●対策

一部の取引先との通信で利用していた全銀TCP/IPをファイネットとの通信でも利用することとしました。

●効果

2009年11月、販売実績受信を全銀TCP/IPに切り替えた結果、通信時間は以前の約1/6の30分程度まで短縮できました。これにより回線占有時間を削減でき、該当する時間帯での他業務のデータ通信が可能となり、業務効率を上げることができました。



東海漬物株式会社

モデムの供給量が減っている状況の中で、今後のデータ交換の安定稼働が懸念事項となっていました。

ファイネットの手順集約の動きもあり、2009年11月に社内システムのリプレイスに合わせ全銀協TCP/IPへの切り替えを行い、今後の安定稼働が確保されました。



純日本品質
東海漬物

[Finet Event] ファイネット・イベント

2010年度ファイネットユーザー会を開催いたします

昨年は新型インフルエンザ流行の影響で、大阪会場での開催を中止し東京会場のみでの開催といたしましたが、2010年度は、例年どおり大阪・東京の2会場での開催を予定しております。

昨年は東京会場のみとなりましたが、120社、265名のご参加をいただいております。

本年も皆様の参加をお待ちしております。

(営業推進部)

大阪会場：5月27日(木) 東京会場：6月3日(木) 詳細については4月下旬に決定する予定です



2009年度ファイネットユーザー会 会場風景

[Finet Announcement] ファイネット・アナウンスメント

ファイネットへのお支払いは、便利な「預金口座振替」をお勧めします

弊社では、お支払い方法に「預金口座振替」がございます。「預金口座振替」をご利用のメリット・お申込み方法は以下のとおりとなります。この機会に、是非とも、ご検討いただければ幸いです。

【ご利用のメリット】

(1)お振込手数料は、通常お客様負担となりますが、振替手数料は弊社負担となります。

(2)月々のお振込手続きが不要になり、業務の簡略化が図れます。

【お申込み方法】

(1)弊社、手続きサイトからのお申込みとなります。

手続きサイト URL <http://www.finet.co.jp/fts>

(2)手続きサイトのご利用が不明の場合のお問合せ先
ヘルプデスク 045-450-5613 (総務部)

編集後記

日本海側を中心に豪雪に見舞われた厳冬も峠を過ぎ、花の便りが聞かれる季節となりました。今号の対談記事は、消費者起点で重要性を増している飲料・食品の「品質系情報」に焦点を当て、『ファイン・ファイネット』では初めて小売り代表の方々をお迎えし熱心な討議をしていただきました。「お客様の要望に如何に応えるか」を大命題にメーカーと小売りそれぞれの立場を尊重しつつも、「あるべき標準化」を模索する有意義な討論で盛り上がったと思います。

ユーザー皆様のご感想、ご意見を心よりお待ちしております。(F)



株式会社ファイネット

FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.18 2010 Spring 2010年3月3日発行

[発行] (株) ファイネット 東京都中央区日本橋兜町13-2 偕成ビル(本館) 7F 〒103-0026
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 村尾 齊



FINET

<http://www.finet.co.jp>